

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
公民	公共	2単位（前・後）	6	6	3

◇ 科目の目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせて現代の諸課題を追究したり考察したりする活動を通して、よりよい社会の実現のため広い視野に立ち、主体的に生きる態度を養う。

◇ 科目の概要

倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）を学び、社会的事象や課題解決のための選択・判断に活かす力につなげる。

◇ 学習の進め方

スクーリングでは、レポート各回のポイントと発展的事項を解説する。スクーリングに出席した後レポートを完成させることが望ましい。各レポートの最後のまとめは丁寧に取り組むこと。

◇ 履修にあたっての留意点

計画的な学習をすること。レポートは、空欄がある、間違いが多いなど、完成度が低いものは再提出となることがある。

◇ スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授業内容	教科書ページ
1	4/30, 5/1 10/15, 16	1	社会を作る私たち、人間としてよく生きる、他者とともに生きる、民主社会の倫理、民主国家における基本原理	6~47
2	5/14, 15 10/29, 30	2	世界の主な政治制度、日本国憲法の基本的性格	48~69
3	5/28, 29 11/ 5, 6	3	平和主義、日本の政治機構と政治参加	70~99
4	6/25, 26 12/ 3, 4	4	現代の経済社会	102~131
5	7/ 9, 10 12/17, 18	5	日本経済の特質と国民生活	132~165
6	7/23, 24 1/ 7, 8	6	国際政治の動向と課題、国際経済の動向と課題	168~195

◇ テスト範囲

【中間】 レポート 1~3	【期末】 レポート 4~6
---------------	---------------

◇ 成績評価の方法

成績はテストの点数、レポートの評価、面接出席時数を総合的に評価します。
 観点別評価の「知識・技能」は主としてテストによる学習の定着度から評価します。よく学習しているものはA、合格の基準を超えたものはB、不合格のときはCとします。
 「思考・判断・表現」は6通のレポートの取り組みを総合して評価します。レポートの表現課題まですべてをしっかりと取り組んだものはA、一定の努力が認められるものはB、不合格のときはCとします。
 「主体的に取り組む態度」はスクーリングの出席状況と学習態度を合わせて評価します。出席状況がよく、積極的に学習に取り組んだものはA、合格の基準を超えたものはB、合格基準を超えないときはCとします。

◇ 使用教科書 『公共』 実教出版

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
地歴	地理B	通年4単位	12	12	6

◇ 科目の目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域について歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、日本を含めた諸地域のこれまでの変容と現在の課題、将来像について考える。

◇ 科目の概要

地図の理解、自然環境、資源と産業、人口と村落・都市、生活文化について学ぶ。さらにこれらの知識や考え方を活かして、世界の諸地域について理解を深める。

◇ 学習の進め方

スクーリングでは、レポート各回のポイントと発展的事項を解説する。スクーリングに出席した後レポートを完成させることが望ましい。

◇ 履修にあたっての留意点

計画的な学習をすること。レポートは、空欄がある、間違いが多いなど、完成度が低いものは再提出となることがある。

◇ スクーリング計画

回数	開講月日	レポ No.	授 業 内 容	教科書ページ
1	4/23, 24	1	地理情報と地図・地図と地域調査	6~30
2	5/7, 8	2	地形・気候	32~63
3	5/14, 15	3	自然と生活・環境問題	64~87
4	6/25, 26	4	農林水産業・資源・エネルギー	88~113
5	7/2, 3	5	工業・流通と消費	114~139
6	7/23, 24	6	人口、都市・村落	140~163
7	10/8, 9	7	衣食住、言語と宗教、民族と国家	164~180
8	10/15, 16	8	現代世界の地域区分、中国、韓国	181~205
9	11/5, 6	9	東南アジア、インド、西アジア・中央アジア	206~235
10	12/3, 4	10	アフリカ、EU、ドイツとポーランド	236~263
11	12/17, 18	11	ロシア、アメリカ	264~285
12	1/14, 15	12	ブラジル、オーストリアとカナダ、現代世界と日本	286~316

◇ テスト範囲

【前期期末】 レポート 1~6	【後期期末】 レポート 7~12
-----------------	------------------

◇ 成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。
 観点別評価の「知識・技能」は主としてテストによる学習の定着度から評価します。よく学習しているものはA、合格の基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。
 「思考・判断・表現」は6通のレポートの取り組みを総合して評価します。レポートの表現課題まですべてをしっかりと取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。「主体的に学習に取り組む態度」はスクーリングの出席状況と学習態度を合わせて評価します。出席状況がよく、積極的に学習に取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、合格基準を超えない時はCとします。

◇ 使用教科書 『新編 詳細地理B 改訂版』二宮書店 『新詳高等地図』帝国書院

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
地理歴史	地理総合	2 (前後期とも)	6	6	3

◇科目の目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

◇科目の概要（目標の詳細）

さまざまな地理的学習をとおして、以下の力を身につける。①情報を調べ、まとめる力。②地理的な課題解決に向けて構想し、他者に説明し、他者と議論する力。③日本国民としての自覚、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さを自覚する力。

◇学習の進め方

スクーリングではレポート各回のポイントを整理する。その後レポートを作成することが望ましい。

◇履修にあたっての留意点

①計画的な学習をすること。②レポートは、完成度が低かったり、空欄がある場合は再提出となる場合がある。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書 ページ
1	4月30,5月1日 10月22,23日	1	地図や地理情報システムでとらえる現代世界（緯度・経度、地図、地図記号等）	P 5～P 54
2	5月7,8日 10月29,30日	2	国際理解と国際協力（1） （世界の宗教、気候等）	P 55～P 91
3	5月28,29日 11月 5,6日	3	国際理解と国際協力（2） （産業、Global Report、地球環境問題等）	P 92～P 129
4	6月25,26日 12月 3, 4日	4	国際理解と国際協力（3） （資源エネルギー問題、人口問題、食料問題等）	P 130～P 145
5	7月 9,10日 12月10,11日	5	国際理解と国際協力（4）（居住・都市問題、民族問題、持続可能な社会の実現をめざして等）	P 146～P 172
6	7月16,17日 1月14,15日	6	持続可能な地域づくりと私たち（防災等）	P 173～P 202

◇テスト範囲（前後期共通）

中間テスト	レポート NO. 1～NO. 3	期末テスト	レポート NO. 4～NO. 6
-------	------------------	-------	------------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。
 観点別評価の「知識・技能」は主としてテストによる学習の定着度から評価します。よく学習しているものはA、合格の基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。
 「思考・判断・表現」は6通のレポートの取り組みを総合して評価します。レポートの表現課題まですべてをしっかりと取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。
 「主体的に学習に取り組む態度」はスクーリングの出席状況と学習態度を合わせて評価します。出席状況がよく、積極的に学習に取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、合格基準を超えない時はCとします。

教科書 『地理総合』東京書籍
 『新詳高等地図』帝国書院

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
地 歴	歴史総合	前期2単位 後期2単位	6	6	3

◇ 科目の目標

近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養う。

◇ 科目の概要

近代から現代まで、日本と世界を関連づけながら、出来事・文化・社会状況などを時系列で学んでゆく。

◇ 学習の進め方

報告課題を柱に、適宜必要な資料を提供し、それぞれの事象の歴史的な意義を検証しながら進める。

◇ 履修にあたっての留意点

知識の寄せ集めにならないよう、有機的・立体的な歴史イメージを形成するよう留意する。

◇ スクーリング計画

回数	開講月日	レポNo.	授 業 内 容	教科書 ページ
1	4/23・24 10/8・9	1	江戸時代の日本と結び付く世界 欧米諸国における近代化	20～45
2	5/7・8 10/15・16	2	近代化の進展と国民国家形成 アジア諸国の動揺と日本の開国	46～69
3	5/28・29 11/5・6	3	近代化が進む日本と東アジア	70～86
4	7/2・3 12/3・4	4	第1次世界大戦と日本の対応 国際協調と大衆社会の広がり	87～121
5	7/9・10 12/17・18	5	日本の行方と第二次世界大戦 再出発する世界と日本	122～146
6	7/23・24 1/14・15	6	冷戦で揺れる世界と日本 多極化する世界 グローバル化のなかの世界と日本	147～194

◇ テスト範囲（前後期共通）

前 期 中 間	レポートNO. 1 ～ 3	前 期 期 末	レポートNO. 4 ～ 6
---------	---------------	---------	---------------

◇ 成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。

観点別評価の「知識・技能」は主としてテストによる学習の定着度から評価します。よく学習しているものはA、合格の基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。

「思考・判断・表現」は6通のレポートの取り組みを総合して評価します。レポートの表現課題まですべてをしっかりと取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。「主体的に学習に取り組む態度」はスクーリングの出席状況と学習態度を合わせて評価します。出席状況がよく、積極的に学習に取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、合格基準を超えない時はCとします。

◇ 使用教科書 『明解 歴史総合』 帝国書院

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
地歴	世界史B	通年4単位	12	12	6

◇科目の目標

「世界の歴史」を古代から現代まで全体的に学ぶ。

◇科目の概要

文明と地域世界の形成、諸地域世界の結合と変容、地球世界の形成などを学ぶ。

◇学習の進め方

面接指導を受けながら、レポートを完成させていく。

◇履修にあたっての留意点

教科書を熟読して大きく流れをつかむこと。

◇スクーリング計画

開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書 ページ
4/30, 5/1	1	西アジア、地中海世界の形成	14～35
5/7, 8	2	南アジア世界の形成	36～47
5/28, 29	3	東アジア世界の形成	48～66
6/25, 26	4	イスラム世界の形成	68～81
7/2, 3	5	ヨーロッパ世界の形成と変動	82～97
7/16, 17	6	内陸アジア世界とアジア諸地域	98～127
10/8, 9	7	ヨーロッパの拡大	128～149
10/15, 16	8	ヨーロッパの拡大と大西洋世界	150～173
10/29, 30	9	ヨーロッパ、アメリカの発展	174～189
12/3, 4	10	世界の分割	189～217
12/10, 11	11	第2次世界大戦	218～229
1/14, 15	12	戦後世界の形成	230～257

◇テスト範囲

《中間》 レポート1～6	《期末》 レポート7～12
-----------------	------------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。
 観点別評価の「知識・技能」は主としてテストによる学習の定着度から評価します。よく学習しているものはA、合格の基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。
 「思考・判断・表現」は6通のレポートの取り組みを総合して評価します。レポートの表現課題まですべてをしっかりと取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。
 「主体的に学習に取り組む態度」はスクーリングの出席状況と学習態度を合わせて評価します。出席状況がよく、積極的に学習に取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、合格基準を超えない時はCとします。

◇教科書 東京書籍『新選世界史B』（2・東書・世B311）

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
地 歴	日 本 史 探 究	通年4単位	1 2	1 2	6

◇ 科目の目標

我が国の歴史の展開について総合的な理解を深め、各時代の展開に関わる概念等を活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し、地域や日本、世界の歴史の関わりを踏まえ、現代の日本の諸課題とその展望を探究する力を養う。

◇ 科目の概要

古代国家の形成から現代までを、国際環境と関連付けて学習する。

◇ 学習の進め方

面接（スクーリング）で学習し、報告課題（レポート）を仕上げるのが望ましい。そして、各レポートの最後のまとめはていねいに取り組むこと。

◇ 履修にあたっての留意点

①計画的な学習をすること。②レポートは、完成度が低かったり、空欄がある場合は再提出となる場合がある。

◇ スクーリング計画

回数	開講月日	レポNo.	授 業 内 容	教科書 ページ
1	4/23・24	1	原始～律令国家の形成	8～40
2	5/ 7・ 8	2	奈良・平安時代（摂関政治～平氏政権）	41～79
3	5/28・29	3	鎌倉時代	80～97
4	7/ 2・ 3	4	室町時代	98～122
5	7/16・17	5	織豊政権～江戸時代初期	124～144
6	7/23・24	6	江戸時代中期	145～165
7	10/ 8・ 9	7	江戸時代後期	166～186
8	10/15・16	8	開国と明治維新	187～197
9	10/29・30	9	明治時代～日清戦争	204～225
10	12/10・11	10	日露戦争～両大戦間期	226～253
11	1/ 7・ 8	11	太平洋戦争～敗戦、占領政策	254～275
12	1/14・15	12	冷戦の始まり～現在	276～306

◇ テスト範囲

前期期末	レポートNO. 1 ～ 6	後期期末	レポートNO. 7 ～ 12
------	---------------	------	----------------

◇ 成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。
観点別評価の「知識・技能」は主としてテストによる学習の定着度から評価します。よく学習しているものはA、合格の基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。
「思考・判断・表現」は6通のレポートの取り組みを総合して評価します。レポートの表現課題まですべてをしっかりと取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。
「主体的に学習に取り組む態度」はスクーリングの出席状況と学習態度を合わせて評価します。出席状況がよく、積極的に学習に取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、合格基準を超えない時はCとします。

◇ 使用教科書 『日本史探究』 東京書籍